

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

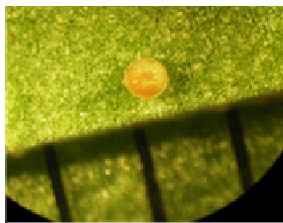
平成22年度病虫害発生予報第8号（11月）について

このことについて、病虫害発生予報第8号を発表したので送付します。

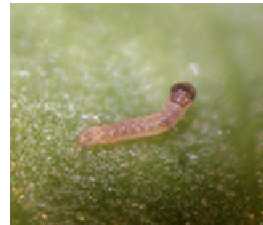
予報第8号

**オオタバコガの発生に注意しましょう！**

オオタバコガの発生が増加傾向にあります。  
中齢以降の幼虫は未熟果や結球部位に食入するため、効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底  
しましょう（野菜共通オオタバコガの項参照）。



卵



若齢幼虫



老齢幼虫



成虫

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	炭疽病	やや少	並	並
	ハダニ類	やや少	やや少	並
ナス	すすかび病	並	並	並
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	やや多
	オオタバコガ	やや多	やや多	やや多
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多	やや多
	コナジラミ類	並	並	並

## <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わらでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は平年より多く、日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温は、1週目～4週目を通して平年並か高いでしょう。

要素別確率（福岡管区気象台 平成22年10月22日発表抜粋）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	20	40	40

## 作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

### 【野菜】

#### 1 イチゴ炭疽病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病株率 0.0%（平年 0.3%、前年 0.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は多いとされている（+）。

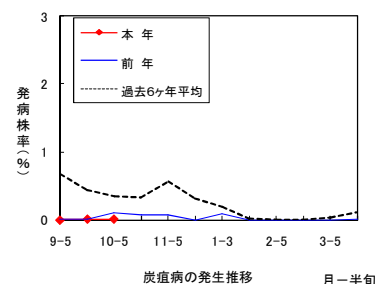
##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、残さを残さずに周囲の土ごと掘り取り、ほ場外で処分する。

イ ビニル被覆後のハウス内温度上昇により、潜在感染株が発病しやすくなる。また、着果負担は発病を助長する。

ウ ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。

エ 無病親株の確保のため、11月から発生する秋期ランナーより採苗する。



#### 2 イチゴのハダニ類

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

寄生株率 0.4%（平年 6.9%、前年 6.1%）

発生ほ場率 13.6%（平年 37.6%、前年 26.1%）

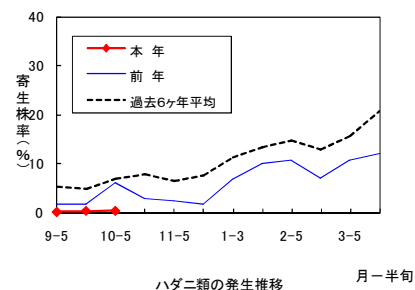
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は多いとされている（±）。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 初期はスポット的に発生し、地面に接した下位葉程寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は、摘葉後に行うと効果的である。その際葉裏に薬剤が十分かかるようにする。

ウ ほ場内と周辺の除草を徹底する。また、摘葉や除草した雑草はハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。



エ カブリダニ類等の天敵の利用は、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布し、ハダニ類の密度を下げてから実施する。

### 3 ナスすすかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月5半月調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 1.0%、前年 0%)

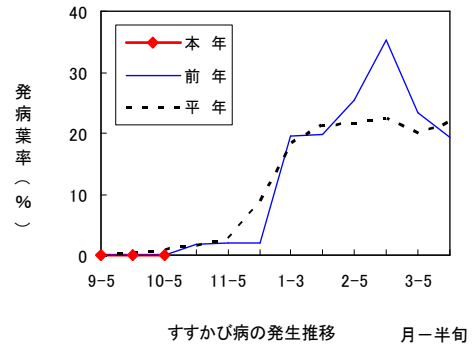
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は多いとされている(+)

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 4 ハスモンヨトウ (野菜共通)

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける10月1～4半月の合計誘殺虫数は、平年より多かった(+)

筑紫野市 1,603頭 (平年 997頭、前年 545頭)

柳川市 2,288頭 (前年 2,637頭)

イ 10月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

イチゴにおける寄生株率 2.6% (平年 1.2%、前年 0.7%)

キャベツにおける寄生株率 0.4% (平年 0.5%、前年 0%)

レタスにおける寄生株率 0.8% (平年 0.7%、前年 0.3%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は多いとされている(±)

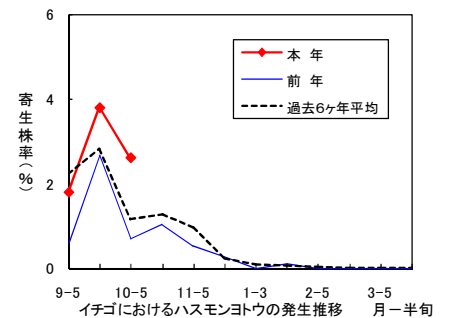
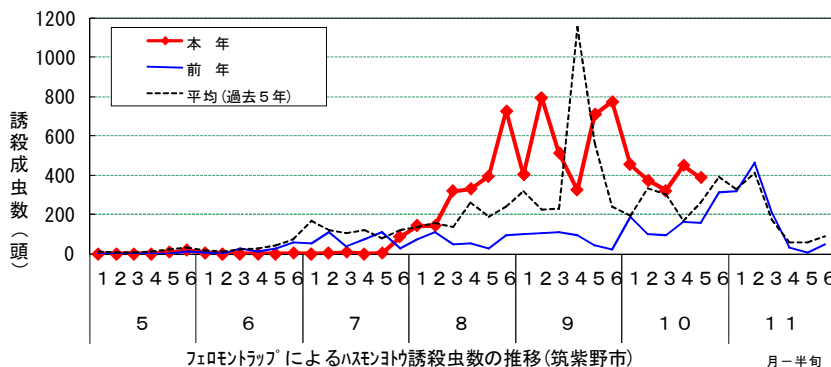
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 孵化直後から3齢幼虫期までに薬剤防除を徹底する。

イ 若齢幼虫は群生しており、かすり状の葉をみつけたら直ちに除去する。

ウ 施設栽培では成虫の飛び込み防止のため、4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。



## 5 オオタバコガ (野菜共通)

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける10月1～4半旬の合計誘殺虫数は、平年並であった(±)。

福岡市 210頭 (平年 256頭、前年 336頭)

イ 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

イチゴにおける寄生株率 1.8% (平年 1.1%、前年 0.3%)

キャベツにおける寄生株率 4.0% (平年 3.2%、前年 3.1%)

レタスにおける寄生株率 19.2% (平年 2.6%、前年 6.7%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は多いとされている(±)。

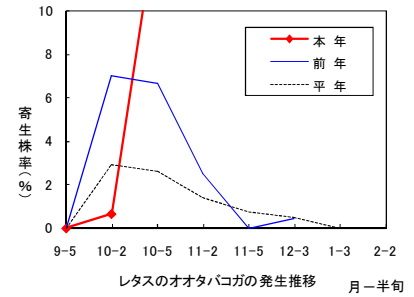
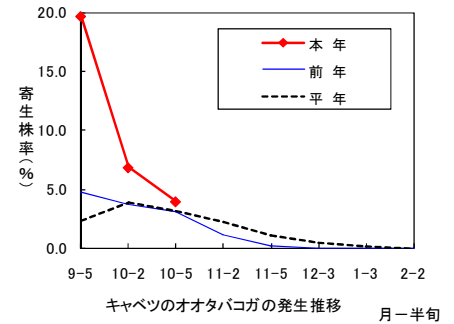
### (3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫は未熟果や結球部位に食入するため、薬剤の効果が著しく低下するので早期発見に努め、孵化直後の幼虫を狙って防除を行う。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため、4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ レタスではビニル被覆前に防除を徹底する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 6 ミナミキイロアザミウマ (野菜共通)

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査結果、平年よりやや多かった(+)

ナス寄生葉率 35.8% (平年 16.1%、前年 19.7%)

ナス発生ほ場率 100% (平年 78.7%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は多いとされている(±)。

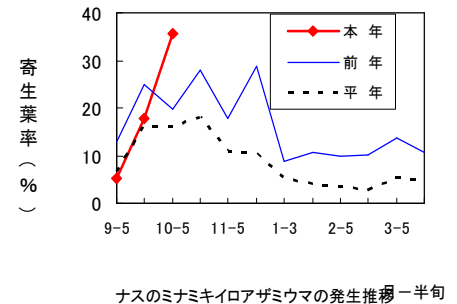
### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本種はキュウリの黄化えそ病(MY SV)の媒介虫である。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染し蔓延するので、早期発見に努め、初期防除を徹底する。

イ 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。また、多発した場合は、約一週間後にもう一度薬剤散布を行う。

ウ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 7 コナジラミ類 (野菜共通)

### (1) 予報の内容

発生量：平年並・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

ナス寄生株率 27.3% (平年 30.7%、前年 33.1%)

トマト寄生株率 0.4% (平年 0.7%、前年 1.1%)

イ トマト苗トラップにおける10月1～4半旬の合計捕獲頭数は、平年よりやや少なかった（－）。

筑後市 87頭（過去6カ年平均 153頭、前年 43頭）

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は多いとされている（±）。

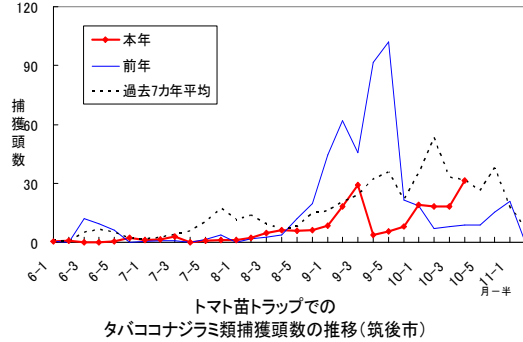
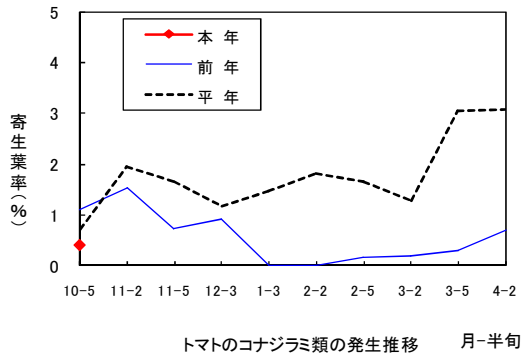
(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。

ウ 葉裏や下位葉にも、薬液が十分かかるよう散布する。

エ トマト黄化葉巻病(TYLCV)とキュウリ退緑黄化病(CCYV)の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
イチゴ うどんこ病	並	並	並	・ビニール被覆前後は発生が多くなるので、発生状況には十分注意し、防除を徹底する。
ナス うどんこ病	並	並	並	・散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する。
灰色かび病	並	並	並	
トマト 葉かび病	並	並	並	・整枝、剪定を行い、通風を良くする。また、肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。
キャベツ 黒腐病	並	並	並	・予防散布に努める。 ・防除適期は結球開始期である。株元へ十分かかるように、株の周囲から散布する。 ・若齢幼虫期に防除する。
菌核病	並	並	並	
コナガ	並	並	並	
レタス 灰色かび病	並	並	並	・発病株は、抜き取り処分した後、直ちに薬剤散布する。 ・灰色かび病との同時防除を行う。 ・凍害にあうと被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。
菌核病	並	並	並	
腐敗病	並	並	並	

## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故を防止することを目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を、関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

散布者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などの※ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

\*農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40 メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

### 2 飛散防止対策の徹底

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

### 5 防除履歴の記帳

○薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布年月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について  
ホームページでお知らせしています。

ホームページ  
電子メール

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>  
[kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)

